Cross

社会問題解決の一助とする…というように 異なる質の目標を使い分けています。

世田谷の特徴について考える

福岡 お二人とも日本の素晴らしい自然資 産や日本庭園などをご覧になっていると思 います。今回の会場である世田谷が、世界 に発信しうる自然的、社会的特徴にはどの ようなものがあるでしょう。

Dawn まず思いつくのが、ランドスケー プに対する管理がしっかりと行われている ということです。世田谷に滞在し、日本中を 旅してみて、単に植樹したり庭をつくったり ということだけでなく、水や土壌、植栽を大 切にされていると実感しました。メンテナン スについても、しっかりと愛着を持って管理 されている様子を目にしてきました。開発さ れた都市のまちなかの緑は少ないのです が、だからこそ、その少ない緑を大切に管 理していると思います。

福岡 例えば、世田谷を少し散歩をしても 見えないものが見えてきますね。私自身も、 世田谷での調査に同行して、日頃と異なる 角度からの知見が得られ非常に勉強になっ た経験があります。おっしゃるように日本や アジアの人々は場所に対する無意識の愛が ある、自然とつながりたい気持ちがあるの かもしれませんね。

篠沢 無印良品のデザイナー 原研哉氏が



「Emptiness」というテーマで、「何もないとこ ろに神様は漂ってきて、そこにおりると神社 ができる…というのが日本の神様の特質で あり、その器をつくっているのが日本の空間 だ」という趣旨のお話をされていました。日 本の神様は旅をしていったり来たりしてい ます。春にサクラが咲くのは遠くにいた田の 神様が里に降りてきてくれた印であり、秋 は神を奥山にお送りするお祭りをします。 神様と私たち、特に農業と私たちの関係に 私は美しさを感じます。私たちがなぜ植物 を愛でるのか? という問いに対する答え の一つは、そこに神様がいるという感覚が 私たちの深いところに刻み込まれているか らだと思います。世田谷の特徴やグリーン インフラの可能性にも、そうしたことが影響 すると思っています。

コロナ禍におけるインフラの計画

福岡 Dawnさんのプレゼンテーションは、 グリーンインフラがなんであるかというこ とではなく、包摂的にどうしたらよいのか、 どうあるべきか? ということでした。それ は協力して何かを発見していくということ なのかと思います。コロナ禍の人々に手を 差し伸べ、コミュニティに関わっていくグ リーンインフラのあり方とはどのようなも のでしょうか。

Dawn 私は、さまざまな困難な状況にあ る地域の人々とともに、食料や伝統を通し て土地とのつながりや文化的なアイデン ティティに気づいたり、さらには植物や生 命そのものへと思いを深める取り組みを 行っています。皆、本当に辛い経験をした にもかかわらず、苦しみの中でも希望をもっ ています。被災したコミュニティの多くは、 コミュニティのつながりを維持し、伝統を取 り戻したいと願っています。また、その取り 組みの経験や知識を他の地域の人々にも提 供し、土地に対する愛を他者と共有しよう としています。本日、この場でこうした考え 方を共有し、お互いに助け合いながら何か を理解しようとして、一緒に何ができるかを 考えていること自体がとても大切なことだ と思ってます。

クロストーク2-1:ウェルビーイング

Enhancing Urban Well-being

- A Psychologically Informed Approach in Post-Disaster and Stressful Cities

Damian Tang (Chairman, Circular Cities Summit)

災害後における課題とは

近年、気候変動により都市のストレスが 高まっており、様々な災害や戦争が起こっ ています。戦争では人や家屋などが失われ ます。これらは、洪水や火災が起こったり するのと同様に大きな影響があります。市

のインフラが混乱してあらゆる機能が麻痺 し、通勤・通学などの移動ができなくなりま す。例えば皆さんが大事な場所を失うとし たらどうでしょうか。家がなくなり、子ども がいるのに行き場がなくなってしまった ら? といったことが問われています。

Googleでwarと検索すると愛する人を



戦争は多くの人を失う

失っている写真がたくさん出てきます。昨 今のウクライナやガザ地区における戦争に よって、命を失っている人たちがたくさんい ます。

これらの問題に対して、私たちはランド スケープアーキテクトとして、インフラレベ ルで考える必要があります。物理的なサ ポートとして様々な支援も考えられますが、 もっと重要な問題があるのではないでしょ うか。災害後における問題はたくさんあり、 特に重要なのが心の問題です。この問題に 対して自らの専門性を駆使して取り組んで いく必要があります。

被災者の声に耳を傾け問題解決に 取り組む

2011年には東日本大震災が起こりまし た。その時に、日本の大学にお招きいただ き、講義しました。私は復興のプロセスに 直接関わってはいませんが、その中でアド バイスを求められ、復興に関わってほしい とお願いされました。ワーキンググループの 議論の場では、復興プロセスがどのように 進んでいくのか、どのような成功事例が あったのかを共有することができました。そ の中で、人はどのような状況で打撃を受け るのかを考えました。愛する人を失い人生 が激変し、多くの人々が感情を吐露するよ うになります。この心にあることを吐き出す ことはとても重要です。ワークショップを企 画する際はコミュニティの声に耳を傾ける ことが必要なのです。

様々な課題についてまとめ、支援プラッ トフォームを構築する

私は公共の様々な仕事の中で対話をして きましたが、東北のような状況はありません でした。私たちが関与し信頼してもらうに は時間がかかります。支援はインフラやプ ログラムなどといった様々な方法からのア プローチがあり、自らを理解するため、そし て問題を解決していくために様々なことを 考えます。

多くの人に癒しをもたらすのが自然の力 です。復興は様々な問題を知るということ、 そして人や都市、文化の意味を考えながら 最終的にどのような問題があるかを理解し たうえで介入することで何をしなければな らないかが分かります。こういった状況で



Googleで[war] と検索すると出てくる最愛の人を失った数々の画像



- 1. Acute Stress Reaction (ASR)
- 2. Post-Traumatic Stress Disorder (PTSD)
- 3. Survivor's Guilt
- Disenfranchised Grief
- Resilience and Growth
- Community-Based Approaches
- Long-Term Recovery
- **Cultural Sensitivity**
- 9. Infrastructure and Safety
- 10. Economic Rehabilitation

復興において解決すべき10の課題



Oasis Terraces

解決していくべき10の課題についてまとめ ました。これらすべての優先順位を考える 必要があります。

私たちはランドスケープアーキテクトと して、「空間や静寂、孤独」「活動や経験の自 動生成 | 「非自発的交流 | 「出会いやコミュニ ティ」「サポートサービス」といった支援プ ラットフォームを構築する必要があります。 これは物理的なものに関わってきます。プ ラットフォームは政策レベルとして利用で き、デザインに組み込むことができます。健 康施設や心理面でも、医師や看護師がつい